

3/23 記者会見

1. 内容（資料ご説明）

①道の駅パティオにいがた リニューアルオープン

令和8年4月から、道の駅パティオにいがたの指定管理者がマルイきらく共同事業体となった。これに伴い、農産物直売所「健幸めっけ」の商品の充実やレイアウト変更などが行われるとともに、レストラン「もみの樹」は「大衆焼肉きらくパティオ店」に生まれ変わり、店内入口には精肉・惣菜販売の「きらく横丁」が新たに開店する。

「健幸めっけ」と「きらく横丁」は4月3日(金)に開店し、4月23日(木)には「大衆焼肉きらくパティオ店」を含めグランドオープンとなりオープニングイベントを開催する。

②デマンドタクシーからコミュニティバスへの乗継パスを発行

見附市では、バス等が運行していない地域と市街地をつなぐ移動手段として、市内6地区でデマンドタクシーを予約に応じて運行している。

このたび、デマンドタクシー利用者の利便性向上と公共交通の利用促進を目的に、デマンドタクシー利用者がコミュニティバスに乗継ぐ際に、コミュニティバス運賃を無料とする乗継パスを発行する。

③診療所新規開業等支援事業 対象診療科目を追加

見附市では地域医療体制の維持・充実を目的に、補助制度により見附市内に新規開業する医科診療所に対し開業資金を支援している。

このたび、補助対象の一部を見直し、施設整備費補助金の補助対象とする診療科目に「耳鼻咽喉科」を加え6診療科目にする。引き続き、関係機関とも連携して、診療所の新規開業に向けた積極的な誘致を展開していく。

④令和8年8月1日からごみ処理手数料を改定

前回改定を行った令和2年7月以降、物価や人件費の高騰の影響でごみ処理にかかるコストが増加し、今後も年々増加していく見込み。このことから、将来にわたり安定したサービスの提供や施設の稼働を保持していくため、8月1日から、ごみ処理手数料を概ね10%値上げする。

⑤市役所における働きやすい職場環境づくりに向けた取り組み

見附市では、誰もが働きやすい魅力ある職場づくりに取り組んでいる。特に子育てしやすい職場となるよう、これまでも「子育て休暇計画シート」の活用や子の看護休暇制度の拡充な

ど、さまざまな取り組みを進め、育児休業取得率100%を達成している。令和8年度は、育休等を取得する同僚を支援する職員に対し手当を加算する制度を新たに創設し、育児休業等の取得促進に加え、同僚職員の業務遂行意欲の向上につなげていく。あわせて時差出勤制度の拡充も行う。

なお、市では従来から、子育てしやすい職場づくりの企業支援を行っており、その一環として、令和8年度から、市内事業者の職員が育児休業の利用期間中の業務を代替する周囲の労働者に手当を支給した場合に、企業に助成金を交付する制度を新たに設けることとした。市役所が市内企業を先導できる存在となれるよう、職場環境改革を進める。

2. 質疑応答

質：新潟日報

- ・パティオにいがたにマルイが入るが、パティオ店ならではの工夫や中之島店、今町店とのすみ分けはあるのか。

答：市長

- ・パティオ店は地元産品を中心に扱う。既存の店舗との連携も行き、相乗効果で商品の充実を図ってもらいたい。

質：新潟日報

- ・健幸めっけと同様に、野菜などの農産物中心の品揃えになるのか。

答：市長

- ・農産物中心になる。

質：新潟日報

- ・新たなレストラン「大衆焼肉きらくパティオ店」の店舗改修も大幅に行っているのか。

答：市長

- ・店舗改修を大幅に行っている。事業者の理由で改修している部分は、事業者の持ち出しで行っている。

質：新潟日報

- ・市負担と事業者負担はどのようにわかれているか。

答：市長

- ・必ず改修しなければいけなかった部分は市の負担になっている。事業者から提案があった改修は事業者負担。

質：新潟日報

- ・「大衆焼肉きらくパティオ店」の席数は。

答：農林創生課長

- ・6人掛けの席が13で、78席ある。

質：新潟日報

- ・パティオにいがたに関連して、大型遊具の整備を進めているが、完成時期はいつ頃か。

答：市長

- ・大型遊具の整備費は、8年度予算に計上し認めてもらった。速やかに整備に着手する。整備時期が決まったらお知らせする。

質：新潟日報

- ・デマンド型乗合タクシーからコミュニティバスへの乗継パスについて、4月1日から事業を開始し、その後は期限をなく続けていくのか。

答：市長

- ・基本的に継続していく。

質：新潟日報

- ・デマンド型乗合タクシーからコミュニティバスへ乗り継ぎをする人の割合は。

答：市長

- ・初めての取り組みのため、統計を取っていない。

答：都市環境課長

- ・デマンド型乗合タクシーが1日7往復、コミュニティバスは相当数走っている。まちなかでの活発な移動に繋がることを期待している。

質：新潟日報

- ・乗継パスを利用すると、コミュニティバスの乗車は1日中無料になるのか。

答：市長

- ・デマンド型タクシー利用当日のみ無料になる。

質：新潟日報

- ・公共交通について、構想はあるのか。

答：市長

- ・公共交通だけでなく、移動手段全体について議論を開始したいと考えている。きっかけは学校再編。スクールバスを行うとなると、バス、運転手の確保が必要になってくる。見附市には、コミュニティバス、コミュニティワゴンがある。また、色々な方の力を借りてまちづくりを行っている。すべての事柄をかけ合わせて交通手段を考えていきたい。中学校の統合を見据えて、しっかり議論していく。高齢者の移動手段、夜の交通手段についても継続して検討していく。

質：新潟日報

- ・「見附市地域公共交通計画」が来年度から新しくなるが、小中学生の通学手段も含めて策定されるのか。

答：市長

- ・「見附市地域公共交通計画」は基本的に公共交通の計画になるが、公共交通の範囲内に通学手段が使われるようであれば、その点も加味した計画にしなければならない。市内全体の移動手段の在り方を検討したいので、小中学生の通学手段も含めて計画を議論していく。

質：新潟日報

- ・一の予算で、コンサルへの委託料が計上されていたが、コンサルはどのような調査をするのか。小中学校の移動手段に関してもコンサルが調査を行っていくのか。

答：市長

- ・学校の通学についてもコンサルに調査してもらおう部分もある。市として検討、整理を行い、成果を出していきたい。

質：見附新聞

- ・デマンドタクシーは、行きも帰りも予約が必要か。

答：都市環境課長

- ・必ず往復で予約する必要はない。帰りも利用したい人は行きも帰りも予約してもらおう。

質：見附新聞

- ・資料のイラストは、自宅から行先までの流れが記載されているが、帰りに乗継バスを使うにはどのような流れになるのか。

答：市長

- ・デマンドタクシー利用者へは、降車時に乗継バスを発行する。その日のうちであれば、何回コミュニティバスに乗っても運賃は無料になる。

質：見附新聞

- ・乗継バスを見せることで、コミュニティバスの運賃は払わなくてよいということか。

答：市長

- ・その通り。

質：読売新聞

- ・市がコミュニティバスの運賃を負担するという形だが、8年度予算は、どの程度確保しているのか。

答：都市環境課長

- ・予算上は例年とほぼ同じような金額で計上している。コミュニティバス全体の年間利用者数は、約20万人。デマンドタクシーの年間利用者数は3,000～4,000人ほど。仮に年間利用者数の2割の人がコミュニティバスを利用したとすると600人から800人程度。市のコミュニティバスへの負担が若干増えるが、コミュニティバスの運行にかかっている今の経費から考えてそこまで大きな負担にならない。

質：見附新聞

- ・運行費全体に対する料金収入の割合は。

答：都市環境課長

- ・令和6年度の収支率は17.7%、令和5年度の収支率は18.6%。

質：読売新聞

- ・対象診療科目の追加について、耳鼻咽喉科を加えた利用をお聞かせいただきたい。

答：市長

- ・市内に2院あった耳鼻咽喉科が1院になった。市民の皆さんからも耳鼻咽喉科があった方がよいとの声を聞いていた。将来、耳鼻咽喉科がなくなってしまうよう、しっかりと誘致をしていきたい。

質：見附新聞

- ・市内に医院を開業し、市内に在住する先生には、インセンティブがあっても良いと思う。

答：市長

- ・市内に新しく開業し、市外から通っている方が多いことは十分承知している。いざという時に対応していただける点や、人口減少対策という観点から、市内に住んでもらいたい気持ちはあるが、市内で医師を採用することが最優先だと思っている。いただいた意見は、今後の制度の在り方の検討材料にさせていただく。

質：読売新聞

- ・育児休業取得率 100%達成というのは、何年度のことか。

答：市長

- ・令和 6 年度。

質：読売新聞

- ・令和 6 年度の育児休業取得者の人数は。

答：総務課長

- ・数名であった。

質：読売新聞

- ・人数の規模としては大体どのくらいか。

答：総務課長

- ・10 人以下。

質：見附新聞

- ・3 月議会で、病院全体ではなくケアプラザに絞った形での将来的な転換を含めた検討を示された。昨年 9 月の段階で、市立病院全体での検討を尋ねた時に、「現時点では公設公営が望ましい、将来的には必ずしも約束できない」との見解だったと思う。ケアプラザの検討については、公設公営を維持していくのか、別の選択肢もあるのか。

答：市長

- ・今回の検討にあたっては、公設公営が前提になる。民間で同様のサービスをやっていける保証があれば考えるが、現時点で非常に難しい。

質：見附新聞

- ・令和 9 年度から始まる介護保険事業計画の中に、ケアプラザの検討を入れ、8 月頃までには方向性を示すとなると、検討時間があまりない印象がある。現時点での進捗と、市民の意見は病院の運営審議会で聞くのか、それ以外にも機会を設けて意見を聞くのか、お聞かせいただきたい。

答：市長

- ・夏ごろには、ある程度の方向性は示さないといけない。現時点で具体的な検討を進めている。どのような形で市民の声を聞くのかは、今後検討する。

質：見附新聞

- ・病院の財政状況についてどのように見ているか。一般会計からの補填をどのように考えているか。赤字の額をどのくらいまで抑えたいという目標があるか。

答：市長

- ・ケアプラザの財政状況は厳しく、赤字が増えている状況。病院は、全国的に経営が厳しい中で

黒字を出して良くやっていると認識している。赤字を一般会計からいくらでも繰り入れて良いかと言うと、そうとは思っていない。しかし、致し方ない判断をせざるを得ない場合もありうる。市長会等で、国に要望を行っていくことも考えたい。赤字の額をどの程度まで抑えたいかは決めていない。

質：新潟日報

・学校の移動手段は「見附市地域公共交通計画」が策定される前に方向性を示すのか。

答：市長

・どちらが先に公表になるかは調整させていただく。8年度中に公表を行う。

質：新潟日報

・学校の移動手段に関しても保護者に説明会などを行うのか。

答：市長

・まずは教育委員会での対応になるが、学校の移動手段は市にとって大きな話になる。どのように市民の皆さんにお知らせするかは今後検討したい。

質：新潟日報

・夜の交通手段は8年度予算に含まれていないが、今後も検討していくのか。

答：市長

・まずは、タクシー会社とコミュニケーションを取りながら対応策を考えていく。

質：見附新聞

・人事異動の内示が公表されたが、今回、地域経済課長が役職定年、企画調整課長が他の課長に異動された。今回の人事異動の目的、考えをお聞かせいただきたい。

答：市長

・今回、一番大きかったのは地域経済課長の役職定年。それを踏まえて、市役所全体として最適な配置になるにはどうするのが良いかを考え、一番機能する人員配置を行った。

質：見附新聞

・7年度の退職者は一般職17人、そのうち勸奨退職が5人であとは自己都合。若手の退職者が増えている印象を持つが、その点はどう考えているか。

答：市長

・他市町村でも若手の退職が多いのは事実。できるだけ退職者を出さないよう、職場環境の充実などに取り組んでいる。私も職員と直接コミュニケーションを取るために「ダイレクトトーク」という取り組みを行っている。そこで職員の思いを把握し、職場環境の改善に取り組んでいる。一方、途中で応募してくる人も増えてきている。そこでしっかりと採用し、見附市に来てもらえるように対応していく。

質：見附新聞

・消防の来年度予算で、大型免許取得の補助が計上されている。市から補助を受けて大型免許を取得した直後、もしくは数年後に退職となると、お金をかけて補助を行うことに疑問を感じる。ただし、職業の自由を束縛してはいけない。そのあたりはどのように考えているか。

答：市長

・消防職員の自己負担になっていた部分があった。資格を取った後も長く勤めていただきたい。

退職者を出さない、減らすための手が打てるのであれば、考えていかなければならない。一方、消防士を希望する人も非常に多くいて、しっかりと採用出来ていると感じる。消防は一般職員以上に指揮命令系統をしっかりとさせる必要のある部門。消防だけではなく、風通しの良い職場づくりにも心がけたい。

質：見附新聞

- ・除雪に関して、大型特殊免許を自費で取得している市職員が何人かいると思うが、除雪人員不足の解消のため、免許取得の補助を行い、除雪オペレーターを増やしてよいと思うが、どうか。

答：市長

- ・雪対策は課題であると認識している。資格取得支援については、どの分野に対して必要か全庁的に考えていきたい。

質：見附新聞

- ・観光物産協会について、令和8年度の途中で市からの職員派遣が終了になる。また、市から協会への補助金の大部分が人件費相当にかかっている。みらい市場に、指定管理制度を導入して活性化を図るべきとの声もあるが、観光物産協会の現状とこれからについてどう考えているか。

答：市長

- ・観光物産協会が設立して、ある程度時期も経過してきたので今後のあり方については検討していかなければならない。特にみらい市場をどのようにしていくか考える必要がある。今まさに、公共施設をどのようにしていくか検討している。みらい市場のあり方も連動して考えていきたい。

質：見附新聞

- ・公共施設等の総合管理計画等公共施設の個別施設計画について、外注の形で3,000万円ほど予算がついており、グラウンドデザインは市が示したことに基づいてやってもらうことだと思うが、公共施設等の総合管理計画については、初めと次の改訂までは職員が自前で行い、公共施設の個別計画は建物の劣化、劣化状況など専門的な資格のある人の調査があるので、その部分を外注したというのが予算を見てるとわかる。学校の長寿命化対策についても、専門的な調査は外注したと思うが、計画の策定自体は自前でやったという見方をしている。アクションプランを含めて計画の改訂を外注に出すのはどうなのか。外注と自前でやるべきところのバランスについて、どう考えているか。

答：市長

- ・自前でできる部分は外注しない。手のかかる分析、専門的な知見、技術が必要なところのみを外注する予定。アクションプランはCSO、企画調整課職員がしっかりと議論して私関与する形でコントロールして対応する。

質：見附新聞

- ・市民の人たちから、市に様々な要請をしてもお金が無いと断られてしまうとの話を聞くことがあるが、必要なところに予算を当ててもらえればよいと思っている。令和5年度当初予算では、66事業9,000万円、令和6年度当初予算で11事業2,000万円の予算削減があった。8年度の予算については、詰められるところは詰めてあり、詰めるところがない状況なのか。市

長の見解を伺いたい。

答：市長

- ・8年度予算については、詰められるところは詰めてある。8年度予算で削減した箇所を示す形で概要を出すべきだったと反省している。事業をなくすところもあって良いと感じている。見直すべきところはしっかり見直したい。お金が無いと断られるとの話について、職員には会議の中でそのような答え方は良くないと話をしたことがある。予算は、優先順位を付けて対応をしているとの説明をしなければならないと考えている。

質：見附新聞

- ・間接的に聞いた話だが、市長から、見附はお金がないと言われた市民もいる。

答：市長

- ・将来に向けて財政体制等を見直していかないといけないという話を、そのように捉えられたのかもしれない。

質：読売新聞

- ・中途で見附市に入られる人が増えているとのことだが、なぜ別の自治体から見附市に来るのか。

答：市長

- ・民間から来る人もいるが、他自治体からの応募も多い印象を持っている。転職が普通になってきたため、終身雇用が当たり前だった時代から、ステップアップを目指す人、家庭の理由等で転職する人が増えたと感じる。市の取組も評価していただいているとも感じる。